

中高生に寄り添うブックガイド

青春の本棚

高見京子 編著



全国学校図書館協議会

見本

中高生に寄り添うブックガイド

青春の本棚

高見京子 **編著**



全国学校図書館協議会

見本

まえがき

青春期・思春期と呼ばれる中学生・高校生の時期は、身体の変化と共に、人生で最も悩み考える時期です。身近な進路や友情、恋愛・家族などについて、また、自分は何者か、人生をいかに生きていくべきかなど哲学的にも思いを深める時期です。みずみずしい感受性に満ち、未来に向かって伸びていこうとしています。

学校図書館は、生徒たちの悩みに寄り添い、勉学に寄り添い、学校生活も支えます。この生徒たちと共にあります。この時期だからこそ、巡り合っほしい本も沢山あります。もちろん、生徒からも教えられ、一緒に学校図書館は作られていきます。

近年、この世代の子どもたちにも目が向けられることが以前に比べて多くなってきました。しかし、まだまだ世間的に認識されにくく、読書の世界でも、YA（ヤングアダルト）層への本、ブックガイドは多いとは言えません。そこで、学校現場で生徒と触れ合い、本もよく知っている司書教諭・学校司書・そして生徒も一緒に、青春の日々に寄り添いながらの本の紹介を、機関誌「学校図書館」で、2017年度から3年間連載をしました。本書は、それらを基にしてブックガイドとしてまとめたものです。子どもたちへの本の手渡し方やリアルな現場の様子が語られ、現役中高生もおすすめる本を紹介しています。選書の参考だけでなく、生き生きとした中高生や学校図書館の姿も感じ取ってくだされば幸いです。

本書の趣旨に、同じように心を寄せてくださり、心に響くエッセイをお書きくださった小手鞠るいさん、読書のイメージが広がる素敵な表紙を描いてくださった中村ユミさんに、この場を借りてお礼申し上げます。

高見京子

もくじ

まえがき	2
プロローグ・エッセイ 一冊の本から始まる 小手鞠るい	8

1章 心に寄り添う

青春を生きる	
『アンネの日記 増補新訂版』 アンネ・フランク 著 深町真理子 訳	12
『人間失格』 太宰治 著	12
『ルーシー変奏曲』 サラ・ザール 著 西本かおる 訳	14
『わたしはマララ：教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』 マララ・ユスフザイ、クリスティーナ・ラム 著 金原瑞人、西田佳子 訳	14
『カラフル』 森絵都 著	16
『僕は上手にしゃべれない』 椎野直弥 著	18
『この気持ちいったい何語だったらつづじるの?』 小林エリカ 著	20
『羊と鋼の森』 宮下奈都 著	20
『4 TEEN』 石田衣良 著	22
自分を見つめる	
『漫画 君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 原作 羽賀翔一 漫画	24
『そして、バトンは渡された』 瀬尾まいこ 著	26
『おれのおばさん』 佐川光晴 著	26
『Masato』 岩城けい 著	28
『さよなら、田中さん』 鈴木るりか 著	28
生徒に寄り添う	
『シカゴよりこわい町』 リチャード・ベック 著 斎藤倫子 訳	30
『海の魚大図鑑：釣りが、魚が、海が、もっと楽しくなる』 石川皓章 著 瀬能宏 監修 隔週刊つり情報編集部 編	30
『うたうとは小さないのちひろいあげ』 村上しいこ 著	32
『リンドバーク：空飛ぶネズミの大冒険』 トーベン・クールマン 作 金原瑞人 訳	34
『パーシー・ジャクソンとオリンポスの神々』 リック・リオードン 作 金原瑞人 訳	34
『なつのいちにち』 はたこうしろう 作	36

見本

『よあけ』 ユリー・シュルヴィッツ 作・画 瀬田貞二 訳	36
『わいわい文庫 マルチメディアDAISY図書2017 ver. 1-2』	
『ダンゴムシのコロリンコくん』を収録 カズコ・G・ストーン 文・絵	36
コラム：YAの担い手たち① あさのあつこ	38

2章 本の世界へいざなう

読書会など

『小さき者へ』 重松清 著	40
『わからん薬学事始』 まはら三桃 著	40
『さがしています』 アーサー・ピナード 作 岡倉禎志 写真	42
『国民のコトバ』 高橋源一郎 著	42
『転換期を生きるきみたちへ』 内田樹 編	43
『さがしもの』 角田光代 著	44
『光抱く友よ』 高樹のぶ子 著	46
『二十一世紀に生きる君たちへ』 司馬遼太郎 著	46

本のカ・言葉の力

『鬼の あしおと 登音』 道尾秀介 著	48
『包帯クラブ』 天童荒太 著	48
『海辺のカフカ（上・下）』 村上春樹 著	50
『ミーナの行進』 小川洋子 著	50
『わたしのメルヘン散歩』 矢川澄子 著	52
『ムギと王さま』	
エリナー・ファージョン 作 石井桃子 訳 エドワード・アーディゾーニ 絵	52
『舞姫：現代語訳』 森鷗外 著 井上靖 訳 山崎一穎 監修	54
『「文豪」がよくわかる本』 福田和也 監修	54
『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス 著 小尾英佐 訳	56
『サイモンvs人類平等化計画』 ベッキー・アルバータリ 作 三辺律子 訳	58
『地下鉄道』 コルソン・ホワイトヘッド 著 谷崎由依 訳	58

選書の魅力

『オーダーメイド殺人クラブ』 辻村深月 著	60
『かがみの孤城』 辻村深月 著	60
『軽井沢のボーイ』 海老原靖芳 著	62

『八月の六日間』 北村薫 著	64
『米澤穂信と古典部』 米澤穂信 著	64
『ヘンな日本美術史』 山口晃 著	66
『I LOVE 盆栽』 葉住直美、ザ・ハレーションズ 著	66
『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』 神田桂一、菊池良 著	68
『RDGレッドデータガール：氷の靴 ガラスの靴』 荻原規子 著	70
『烏百花：八咫鳥外伝 蛍の章』 阿部智里 著	70
『家庭教室』 伊東歌詞太郎 著	72
『日本の給料&職業図鑑』 給料BANK 著	74
『見るだけでわかる！ビジネス書図鑑』 グロービス 著	74
『虹色ほたる：永遠の夏休み』 川口雅幸 著	76
『にっぽんのおかず』 白央篤司 著	78
『3年7組食物調理科』 須藤靖貴 著	78
コラム：YAの担い手たち② 角野栄子	80

3章 未知の扉を開ける

生き方・人権

『「自分の木」の下で』 大江健三郎 著 大江ゆかり 画	82
『淳子のでっぺん』 唯川恵 著	84
『16歳の語り部』 雁部那由多ほか 語り部 佐藤敏郎 案内役	86
『国宝（上・下）』 吉田修一 著	88
『さよなら、仏教：タテマエの僧衣を脱ぎ去って』 高橋卓志 著	88
『MARCH 1~3』	
ジョン・ルイス、アンドリュー・アイディン 作 ネイト・パウエル 画 押野素子 訳	90
『THE LAST GIRL』 ナディア・ムラド、ジェナ・クラジェスキ 著 吉井智津 訳	92
『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ：あなたがくれた憎しみ』	
アンジー・トーマス 作 服部理佳 訳	94
『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 プレイディみかこ 著	94
『あん』 ドリアン助川 著	96
『世界の果てのこどもたち』 中脇初枝 著	96
『戦争と平和』	
『職業は武装解除』 瀬谷ルミ子 著	98

見本

『綾瀬はるか「戦争」を聞く』TBSテレビ『NEWS23』取材班 編	100
『データを紡いで社会につなぐ：デジタルアーカイブのつくり方』渡邊英徳 著	100
『また、桜の国で』須賀しのぶ 著	102
『アウシュヴィッツの図書係』アントニオ・G・イトゥルベ 著 小原京子 訳	102
『ある晴れた夏の朝』小手鞠るい 著	104
『はじめての沖縄』岸政彦 著	106
『めんそーれ！化学：おばあと学んだ理科授業』盛口満 著	106
『ナガサキの郵便配達』ピーター・タウンゼント 著 中里重恭 訳	108

学び

『イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑』澤宮優文 平野恵理子 イラスト	108
『英語でよむ万葉集』リービ英雄 著	110
『中学生からの論文入門』小笠原喜康、片岡則夫 著	110
『科学と科学者のはなし』寺田寅彦 著 池内了 編	112
『生きるための図書館：一人ひとりのために』竹内愨 著	114
『宇宙を生きる：世界を把握しようともがく営み』磯部洋明 著	116
コラム：YAの担い手たち③ 梨木香歩	118

4章 中学生にも絵本を

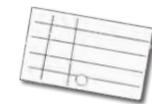
『100万回生きたねこ』佐野洋子 作・絵	120
『長田弘全詩集』長田弘 著	122
『最初の質問』長田弘 詩 いせひでこ 絵	122
『あの日をわすれないはるかのひまわり』指田和子 作 鈴木びんこ 絵	124
『はるかのひまわり』加藤いつか 著	124
『へいわとせんそう』たにかわしゅんたろう ぶん Noritake え	124
『急行「北極号」』クリス・ヴァン・オールズバーグ 絵・文 村上春樹 訳	126
『ぐりとぐらのおきゃくさま』なががわりえこ 文 やまわきゆりこ 絵	126
『かべ』ピーター・シス 作 福本友美子 訳	128
『おおきな木』シェル・シルヴァスタイン 作 村上春樹 訳	130
『キツネ』マーガレット・ワイルド 文 ロン・ブルックス 絵 寺岡襄 訳	132
『ぼくを探しに』シェル・シルヴァスタイン 作 倉橋由美子 訳	134
『坂の街のケーブルカーのメイベル』 バージニア・リー・バートン 文・絵 秋野翔一郎 訳	136

コラム：YAの担い手たち④ 梨屋アリエ	138
---------------------	-----

5章 中高生がすすめる

『三島由紀夫レター教室』三島由紀夫 著	140
『京大芸人』菅広文 著	140
『舟を編む』三浦しをん 著	142
『非戦』坂本龍一+sustainability for peace 監修	142
『哲学的な何か、あと数学とか』飲茶 著	144
『和泉式部日記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』川村裕子 編	144
『京都ざらい』井上章一 著	146
『新版 古事記物語』鈴木三重吉 著	146
『世にも奇妙な人体実験の歴史』トレヴァー・ノートン 著 赤根洋子 訳	148
『死の影の谷間』ロバート・C.オプライエン 著 越智道雄 訳	148
『これからの日本の論点：日経大予測 2018』日本経済新聞社 編	150
『一九八四年 新訳版』ジョージ・オーウェル 著 高橋和久 訳	150
『華栄の丘』宮城谷昌光 著	152
『一刀斎夢録(上・下)』浅田次郎 著	152
『色の名前』近江源太郎 監修 ネイチャー・プロ編集室 構成・文	154
『十角館の殺人』綾辻行人 著	154
『ペンギン・ハイウェイ』森見登美彦 著	156
『究極の文字を求めて』松樟太郎 著	156
『精霊の木』上橋菜穂子 作 二木真希子 絵	158
『新版 ガラスのうさぎ』高木敏子 作 武部本一郎 画	158
『コーヒーが冷めないうちに』川口俊和 著	160
『レ・ミゼラブル』ユゴー 著 佐藤朔 訳	160
コラム：YAの担い手たち⑤ 金原瑞人	162
コラム：YA読者のいま Vol.1 「中学生の読書離れ」は本当か?!	163
コラム：YA読者のいま Vol.2 中学生対象のシリーズや文学賞	164
あとがき	166
著者索引	173

見本



アンジー・トーマス 作
服部理佳 訳
『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ：
あなたがくれた憎しみ』
(岩崎書店)

目の前で幼なじみが白人に 打ち殺された

アンジー・トーマス Angie Thomas

アメリカミシシッピ州生まれ。作家。元ラッパー。大学でクリエイティブ・ライティングを専攻し、在学中に本作品を書き始めた。ボストングローブ・ホーンブック賞、カーネギー賞を受賞。2018年に映画化された。

イギリスの公立中学に通う 息子のリアルな日々

ブレイディみかこ Mikako Brady

1965年福岡県生まれ。1966年から英国ブライトン在住。ロンドンの日系企業で勤務したのち英国で保育士資格を取得し、保育所で働きながらライターとして執筆をはじめ。2017年新潮ドキュメント賞を受賞。著書に『子どもたちの階級闘争—ブロークン・プリテンの無料託児所から』などがある。



ブレイディみかこ 著
『ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー』
(新潮社)

今年度、中学1年の地理の授業は、学校図書館で世界のさまざまな地域の子どもの日常を伝える本を1冊選ぶことから始まった。多くは写真集のようなヴィジュアルな本だったが、海外の十代が主人公の9類の本も並べた。そのうちの1冊が、今回紹介する『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ：あなたがくれた憎しみ』である。

主人公のスターは、ドラッグや暴力がはびこるアメリカの黒人街ガーデン・ハイツで育った16歳。ある夜、ガーデン・ハイツのパーティーに来ていたスターは、突然の銃声におののき、幼なじみのカリルの車でその場を後にした。そのカリルを、白人の警官が呼び止めた。反抗的な態度が災いし、カリルはスターの目の前で警官に撃ち殺されてしまう。警察は正当防衛として事件を片付けようとする。

真実を告げられずにいたスターはやがて生まれ育ったガーデン・ハイツやカリルへの思いに突き動かされ、法廷で証言台に立つことを決意する。貧困、ドラッグ、人種差別など、アメリカが抱える現代の問題を正面から描いたYA作品である。

もう1冊紹介したいのが『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』。イギリスの名門小学校に通っていた息子が、荒れていることで有名だった近所の中学校に進学を決めた。その中学校は、ここ数年音楽や演劇と

いった授業に力を入れ、子どもたちの素行も成績も急上昇していた。親の心配をよそに、楽しみに学校生活をスタートした息子。そんな彼の学校での日々を描いたノンフィクションだ。

今まで通っていた上品な学校とは違い、生徒の多くは白人労働者階級の子どものたち。いじめもレイシズムもけんかも日常茶飯事だったが、気がつけば自分たちの手で解決するなど先に進んでいる息子たちの姿に、大人の方が勇気をもらう。イギリスの公立中学校が、さまざまな問題に本気で取り組んでいる様子がピンピン伝わって来るのもこの本の魅力だ。

印象的だったのは、セクシャル・オリエンテーション後の帰り道、中学生の一人が、「自分はまだわからない」とクールにつぶやく、そのことを友人たちが受け止める姿だ。子どもが本当に生きることを学ぶ場所は、リアルなこの社会、そして本がそれを伝える。

現在、本校では、東京学芸大学の先生を交えて「性の多様性に応じる学校」というテーマで、音楽・保健体育の教諭、養護教諭、学校司書でプロジェクトを組んでいる。この本もぜひ読んでほしいと、紹介したところだ。

(村上)

見本